

# 多伎地区アワビ幼稚仔保育場調査

竹内四郎・勢村 均・山本能久

1. 目的： アワビ生息密度および植生現存量の季節変化を観察する。
2. 調査期日： 昭和57年8月19日, 31日, 11月18日
3. 調査方法

保育場内の灘から沖へ向けて3本の線を決め、各線に沿って、10 m毎に約10回の坪刈り、およびアワビの観察を行った。坪刈りは、8月には1 m×1 mの、11月には0.5 m×0.5 mの方形枠を用いて実施した。アワビ個体数、殻長、付着位置の観察には8月、11月ともに1 m×1 mの方形枠を用いた。

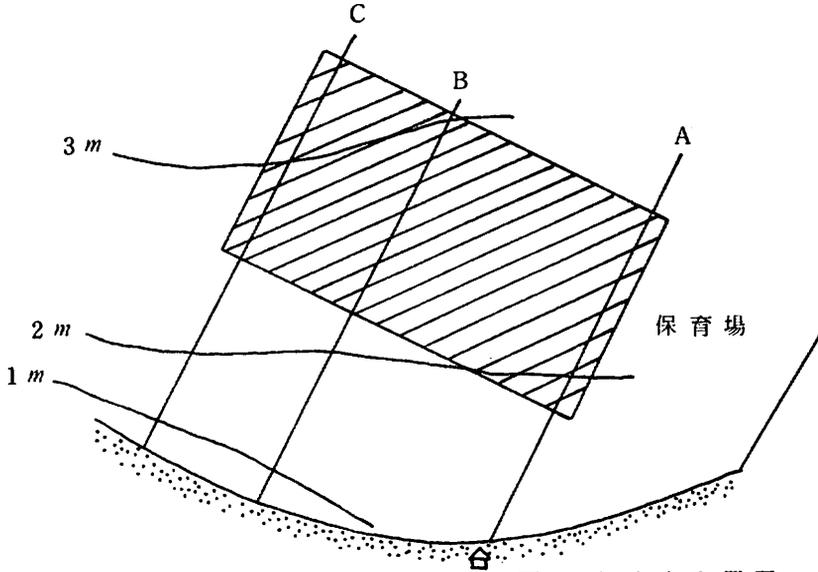


図1 調査点配置図

## 4. 結果

### a. アワビ生息密度

8月はA線には全く見いだされず、B線で多く見いだされた。最高密度は3個体/m<sup>2</sup>であり、平均密度は0.39個体/m<sup>2</sup>であった。見いだされたアワビはすべてクロアワビであった。付着部位は物体の下部>すきま≧側面、の順であった。殻長は8~10 cmにかけてが多かった。

11月はB線での密度が最も高く、ついでA線、C線の順であった。最高密度は5個体/m<sup>2</sup>、平均密度は0.87個体/m<sup>2</sup>であり、すべてクロアワビであった。この最高密度、平均密度はいずれも8月のそれよりも高かった。付着部位は、物体の側面>すきま>下面≧上面であり、8月よりも発見しやすい場所に多く生息していた。殻長は7~12 cmの個体が多かった。

### b. 保育場と天然礁との比較

保育場内西側と、保育場外の沖側にある天然礁とにそれぞれ潜水者2名で10分間アワビを探索

し、相対的な密度を比較した。水深は保育場約 3 m、天然礁約 3~5 mで、天然礁はいわゆる「たな場」であった。この結果、保育場内では 12 個体/10 分、天然礁では 5 個体/10 分であった。この結果でみる限りでは保育場内は場外より生息密度が高いと考えられる。

c. 植 生

8月 は 3,756 g ~ 300 g/m<sup>2</sup>, 11月 は 8,360 g ~ 280 g/m<sup>2</sup>の現存量であり、最高値は11月が高かった。最低値は各月とも六脚ブロック帯で記録された。優占種はいずれの月もヤツタモク、オオバモクであった。六脚ブロック帯には主としてソゾ類が着生し、他とは組成を異にしていた。なお、六脚ブロック帯には2月に0.5 m × 0.5 m ワク内に100 個体近いバフンウニが付着していたのが観察された。

この値は他に比較してかなり高く、ウニ類等による摂餌が海藻現存量の低下をまねいているとも考えられた。

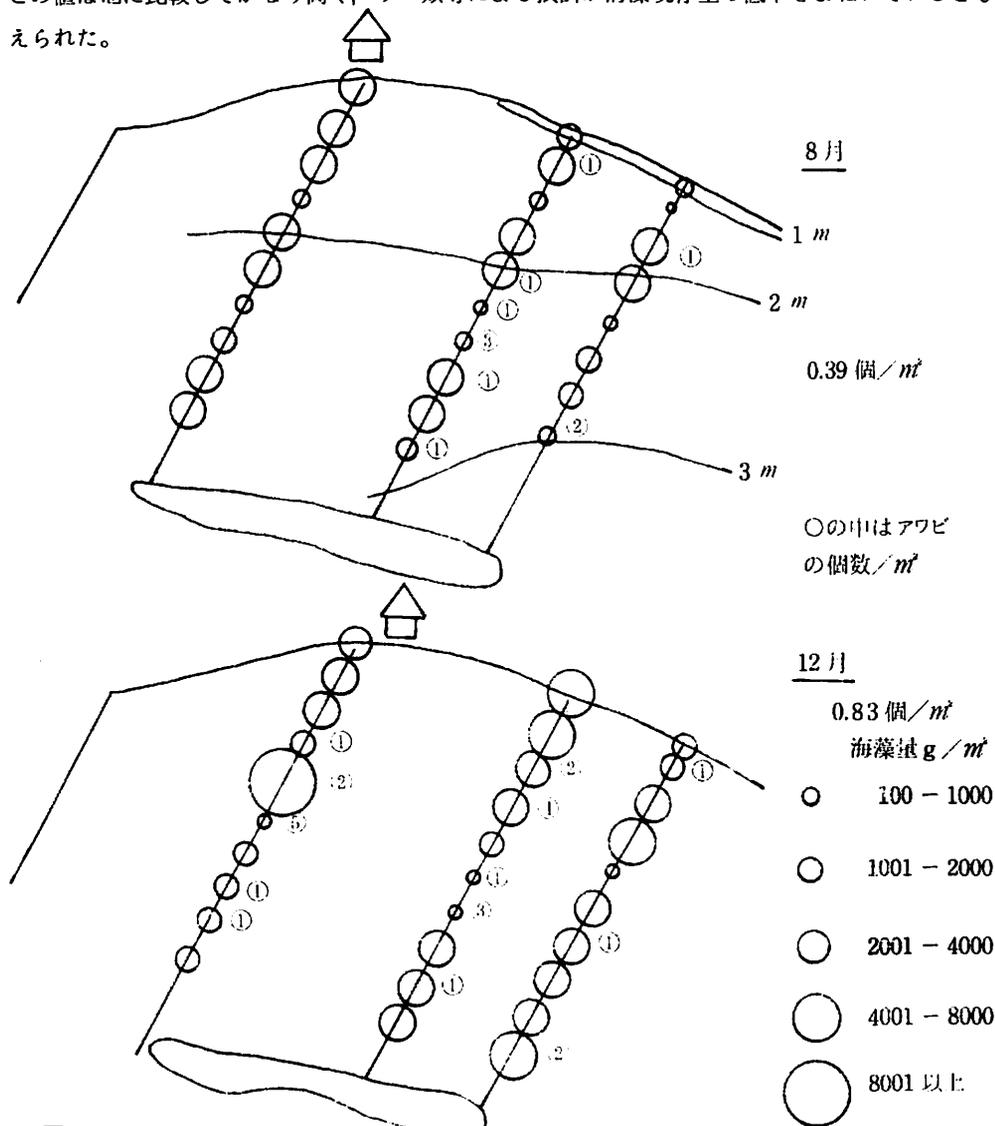


図 - 2 海藻量とアワビの密度